

2023(令和5)年度 部局マニフェスト ～私たちの組織使命と目標～



部局名	上下水道部
役 職	部 長
氏 名	堀山 和弘
連絡先	0595-24-0001

業績目標の達成状況
5. 先進的な取り組みを行い、成果があった
4. 達成水準を上回る成果があった
3. 業績目標を達成した
2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった
1. 業績目標に取り組まなかった

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標1	関連の施策・基本事業No. 2-6・①	〈現在の状態〉 近年の気候状況や水質変動に対応できる配水系統の構築に加え、更新需要の集中が見込まれる老朽施設の統廃合計画の見直しが必要である。 ↓ 〈達成目標〉 川上ダムからの安定水利を活用した配水系統と施設の統廃合計画を反映させると共に、現在のタイプ2－C(簡略型)から3－C(標準型)へアセットマネジメント計画の高度化を図る。 ※目標が達成した状態 水道事業アセットマネジメント計画に基づき、水道事業基本計画を見直すことができる。	①老朽施設の更新需要と水道事業における財政収支見通しから暫定アセットマネジメント計画作成 ②更新需要と収支見通しから更新費用の平準化を検討 ③更新費用平準化計画に準じて施設の統廃合、優先順位を加味した更新計画を策定 ④アセットマネジメント計画に反映 ※上記手順をPDCAサイクルに準じて計画の収束を図る。
◎部局目標2	関連の施策・基本事業No. 2-6・①	〈現在の状態〉 水道管総延長(1,372km)に占める耐震管路延長の割合が9.5%(130.1km)である。 ↓ 〈達成目標〉 老朽化した水道管等の布設替工事により耐震化率9.8%(135km)以上を目指す。 ※目標が達成した状態 地震に強い水道管が増えることにより、災害発生時における安心・安定した水道水の供給が行える。	緊急時の給水拠点を確保する為に、令和2年度から計画的に実施している重要給水施設配水管整備として、今年度は市民病院へ供給する管路約800mや上野小玉町地内における老朽管路約500mの他、御代・川東・柘植地内で1150mと下阿波・平田地内で1300mの布設替工事を行う。

達成状況 (自己評価)	理由
3	施設の重要度・疲労度等を勘案した優先度の設定及び更新費用等を算定し、中長期的財政収支に基づく計画的な施設の整備・更新と資金確保を図るための計画を策定した。
3	今年度の管路更新については、大口径管路が対象であったことや管材費の物価高騰の影響も受け更新延長が伸び悩んだが、耐震化率としては9.77%となりおおむね目標を達成することができた。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段
◎部局目標3	関連の施策・基本事業No 2-6・①		
経営基盤の強化と財政マネジメントの向上	有収率の向上	〈現在の状態〉 前年度の有収率は83. 2%である。 ↓ 〈達成目標〉 有収率 83. 5% ※目標が達成した状態 有収率が向上する事で貴重な水を無駄なく有効に利用し、経営基盤の強化を図る事ができる。	漏水の疑いがある地域を絞り込み、漏水の発見・修繕につなげる為に、最新の技術などの活用を検討し漏水調査を行う。 今年度は、阿保配水池系統エリアで漏水調査を実施し、早期修繕や管路更新を図る。
◎部局目標4	関連の施策・基本事業No 2-6・①		
経営基盤の強化と財政マネジメントの向上	水道料金の収納率の向上	〈現在の状態〉 ・2022(令和4)年度末水道料金 収納率 98.3. % ↓ 〈達成目標〉 ・2023(令和5)年度末水道料金 収納率 98.8 %以上 ※目標が達成した状態 水道料金収納率の向上により、経営の安定と健全化を図る。	水道お客様センターが行っている滞納対策に関して、優先すべき事案や具体的方法について四半期毎に検証しながら、効果的な債権回収を行う。 未収債権が増大する前に、収税課への債権管理を移管するため、移管対象事案の精査を随時行う。

達成状況 (自己評価)	理由
2	随時漏水調査を行い複数個所の漏水を発見し修繕と管路更新を行ったが、有収率は81.5%に留まり目標値を達成することができなかった。今後、最新技術である衛星を活用した漏水調査を実施し更なる有収率の向上に取り組む。
4	停水(予告)の実施を従来より厳格に行ったことで滞納額の増加防止に繋がったことから、収納率が目標値を上回る99.0%となり目標を達成することができた。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標5	関連の施策・基本事業No. 2-6・②				
生活環境の向上と公共用水域の水質保全	合併処理浄化槽の推進	〈現在の状態〉 生活環境の急激な変化に伴う、台所・風呂・洗濯などの多量な生活污水が、水路などに流れ込み、悪臭の発生と川を汚す原因となっている。 ↓ 〈達成目標〉 ・補助金申請件数 220基を目標とする。 ※目標が達成した状態 令和6年度末で処理人口普及率84.6%が達成している。	・5月号の広報誌での周知 ・浄化センターへ依頼し、くみ取り時及びくみ取り券販売時に啓発チラシを配布してもらう ・市民夏のにぎわいフェスタ2023において周知 ・上野市街地の自治会に啓発チラシを回覧	3	各種啓発活動の効果もあり、浄化槽設置に係る補助金申請件数が増加し当初想定した普及率を達成することができた。
◎部局目標6	関連の施策・基本事業No. 2-6・②				
経営基盤の強化と財政マネジメントの向上	下水道使用料の収納率の向上	〈現在の状態〉 ・2022(令和4)年度末下水道使用料 収納率 98.6. % ↓ 〈達成目標〉 ・2023(令和5)年度末下水道使用料 収納率 98.9%以上 ※目標が達成した状態 下水道使用料収納率の向上により、経営の安定と健全化を図る。	滞納者の状況を調査し、納付勧奨を行ったうえで、それに応じない滞納者に対しては、督促後、未収債権が増大する前に、収税課への債権管理を移管するため、移管対象事案の精査を随時行う。	2	滞納者への納付勧奨を随時行い収納率の向上に努めたが、収納率は98.5%に留まり目標を達成することができなかった。